ミャンマー「国立リハビリ病院」と「ヤンゴン子ども病院」での車椅子引き渡し完了

下記スケジュールで車椅子合計 90 台の引き渡しが完了しました。

9 月 7 日	国立リハビリ病院	45 台（2012 年 40 台、2014 年 45 台）
9 月 8 日	ヤンゴン子ども病院	45 台（2014 年 45 台）

両病院のそれぞれの式には、ミャンマー保健スポーツ省の Deputy Director と日本大使館から参事官と一等書記官の来賓と病院関係者多数が出席し、合計 33 人の子ども達と家族に車椅子が引き渡されました。

来賓のスピーチに加えて、当会から出席した小田理事がスピーチに引き続き、日本の子供たちから提供された車椅子を特別支援学校で受け取り、会員とボランティアの手によって修理・整備しコンテナーに積み込むまでの工程をスライドで紹介しました。
スライドの内容が子ども達の家族を始めすべての出席者に理解できるように英語とミャンマー語で説明し車椅子が多くの人達の善意と協力を得てミャンマーの子供たちの手に届いており「車椅子は家族の一員」と考えて有効にかつ大切に使用することを要望しました。

式前日の両病院との会議の席と式後の保健スポーツ省の来賓との会話では、これまでの車椅子寄贈に対しての感謝の言葉と同時に、これからの活動の継続も強く要望されました。ヤンゴン市内だけでなく、マンダレーなどの地域の病院にも配布をしたいとのことです。

式の様子

国立リハビリ病院

3 回連続式出席の日本大使館松尾審議官と保健スポーツ省の Dr. Htay Aung

ヤンゴン子ども病院

日本大使館船井一等書記官

右から保健スポーツ省の Dr. Myat Wunna Soe
ヤンゴン子ども病院 Sinior Superintendent Dr. Su Su Dwe

スライドによる日本での活動紹介

保健スポーツ省から礼状を受けとる。

子ども達代表から感謝の言葉を受ける。

国立リハビリ病院

ヤンゴン子ども病院

子ども達と家族

式の前日リハビリのためにリハビリ病院を訪問していた子ども達と家族

会場での子ども達

子ども達の顔に付けている白っぽいものは「タナカ」と呼ばれる伝統の化粧です。「タナカ」という木から作られており、大人も使用しています。化粧のほか日焼け止めとしても使われています。

温かいまなざし

保護者父兄も慣れない会場で緊張しています。その緊張状態の中でも常に我が子や孫を見守っている優しいまなざしが絶えません。慣れない環境で泣き出す子供たちや不安な様子の子ども達を見守りやさしくあやす保護者父兄の皆さんの温かいまなざしが大変印象的でした。

子ども達の自宅訪問

式後に前回 2014 年に車椅子を受け取った 6 名の子ども達の自宅を訪問しました。

それぞれの病院の担当者と一緒に訪問し、一台の車椅子に小さな不具合が見つかり、すぐに病院の工房で修理をする手配をとりました。

車椅子を受け取って以来、家族の生活が大きく変わったことはすべての家庭に共通で、初めて子どもを連れて家族でマンダレー旅行に行けた話や、足首を固定する補装具と歩行訓練器を使って子どもが家の周りを歩き、近所の人達から声をかけられるのを喜んでいる話を聞くことが出来ました。その子の小さな社会参加の始まりです。

兄の車椅子の足置きのスペースが妹のいつものお気に入りの場所